

お薬手帳活用促進のための 当院の取り組み

山口県 地域医療支援病院
オープンシステム徳山医師会病院 薬局

久野ひとみ、有馬治男、吉永哲史、伊ヶ崎芳美、
渡邊なつ美、坂田幹枝、西村正広

目的

お薬手帳は薬薬連携のために重要なツールである。しかしながら、当院ではこれまでお薬手帳の配布は行っておらず、自ら提出する患者のみに対応するだけであった。

そこで今回、昨年11月末に山口県薬剤師会において『お薬手帳活用促進キャンペーン』が実施されたことを機会に、当院においても活用促進を目的としてお薬手帳の持参率をアップさせるための取り組みを行ったので報告する。

事前調査

- **目的:** 1) 取り組み前のお薬手帳の持参状況の把握
2) ポスターでの啓発による持参率への影響(外来患者のみ)
- **期間:** H19年11月1日～11月30日(1ヶ月間)
- **対象:** 期間中に当院受診の外来患者291名及び入院患者170名
- **方法**

1. 対象: 外来患者

受付でお薬手帳を自ら提出した患者数を2段階に分けて調査

1) 11月1日～15日: 受付表示のみ

外来受付前に「お薬手帳を持参している方は診察券と一緒にお出し下さい」と表示(同年10/1～以後継続)

2) 11月16日～30日: ポスター掲示

外来待合室と総合受付ビルの2カ所に「お薬手帳啓発ポスター」を掲示し、「希望される方は無料で配布します」と表示(同年11/16～以後継続)

2. 対象: 入院患者

薬剤師が入院初回面談時にお薬手帳の持参状況(持参あり、家にある、持っていない、不明)を聞き取り調査

取り組み【外来患者】

- **期間:** H19年12月1日～H20年3月31日(4ヶ月間)

- **対象:** 期間中に当院受診の外来患者348名

- **方法**

1. 期間中の初回受診時

薬剤師が投薬時にお薬手帳の持参状況(持参あり、家にある、持っていない)を確認し、状況に合わせて下記の通り対応する

- ◆ 「持参あり」 今後も持参するように説明

- ◆ 「家にある」 **活用の必要性**を説明しシールを渡す。次回から持参するように説明

- ◆ 「持っていない」 「お薬手帳」と「啓発パンフレット」を配布し、**活用の必要性**を説明。次回から持参するように説明

服薬指導録に確認した内容を記録

2. 期間中の2回目以降(お薬手帳配布後)の受診時

お薬手帳持参の有無を確認し、持って来ていない患者には今後は持参するように説明

取り組み【入院患者】

- **期間**: H19年12月1日～H20年3月31日(4ヶ月間)
- **対象**: 期間中に当院に入院してきた患者 559名
- **方法**
 1. **入院初回面談時(対象:入院患者全員)**

薬剤師がお薬手帳の持参状況(持参あり、家にある、持っていない、不明)を確認する

服薬指導録に確認した内容を記録
 2. **退院時(対象:退院指導患者のみ 334名)**

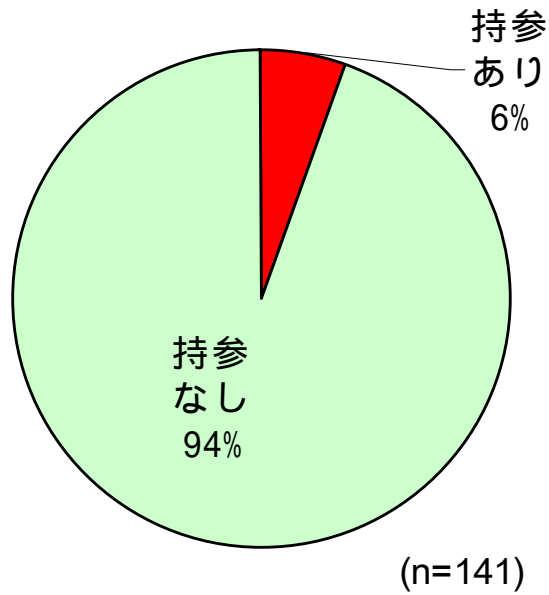
入院時に確認した持参状況に合わせて下記の通り対応する

 - ◆ 「持参あり」 今後も活用するように説明
 - ◆ 「家にある」 活用の必要性を説明し、シールを渡す
 - ◆ 「持っていない」 「お薬手帳」と「啓発パンフレット」を配布し、活用の必要性を説明

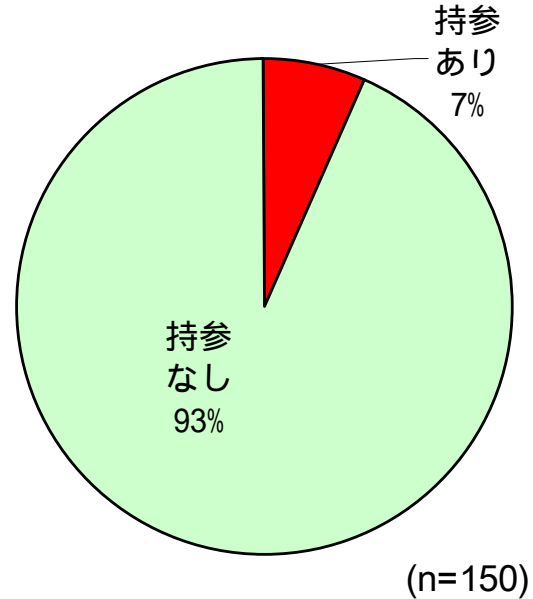
結果【事前調査】

お薬手帳の持参状況

外来患者

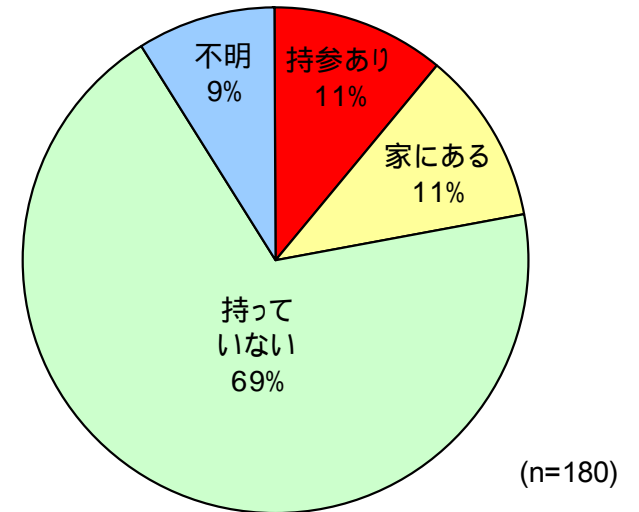


<ホスター掲示前>



<ホスター掲示後>

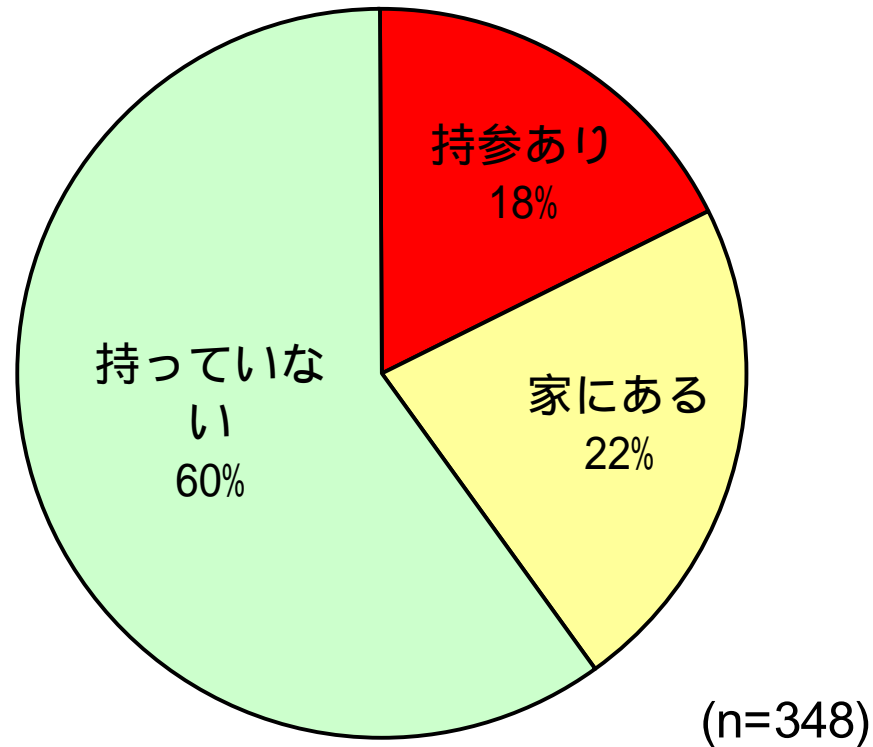
入院患者



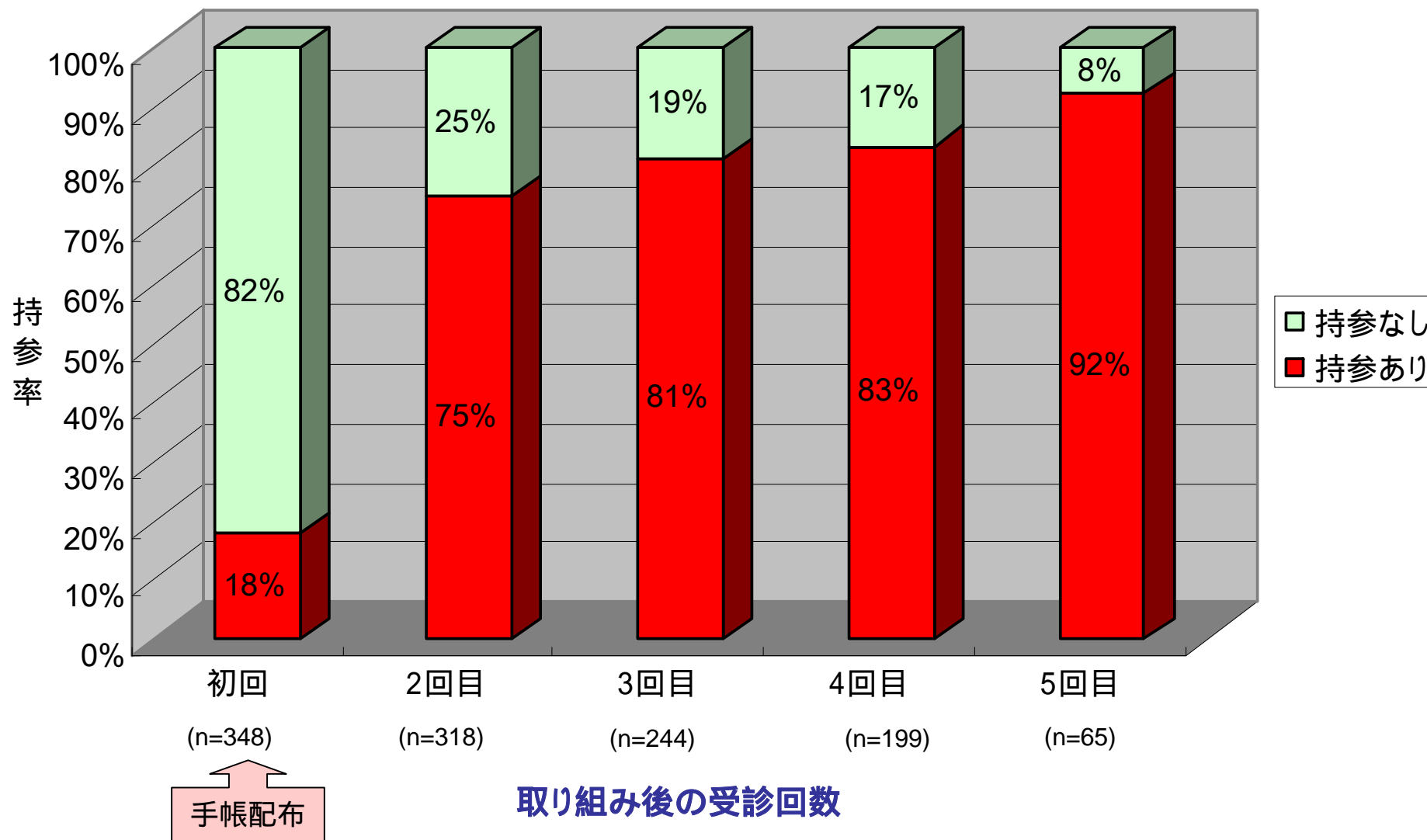
(延べ人数に対する割合)

結果 【取り組み後：外来患者】

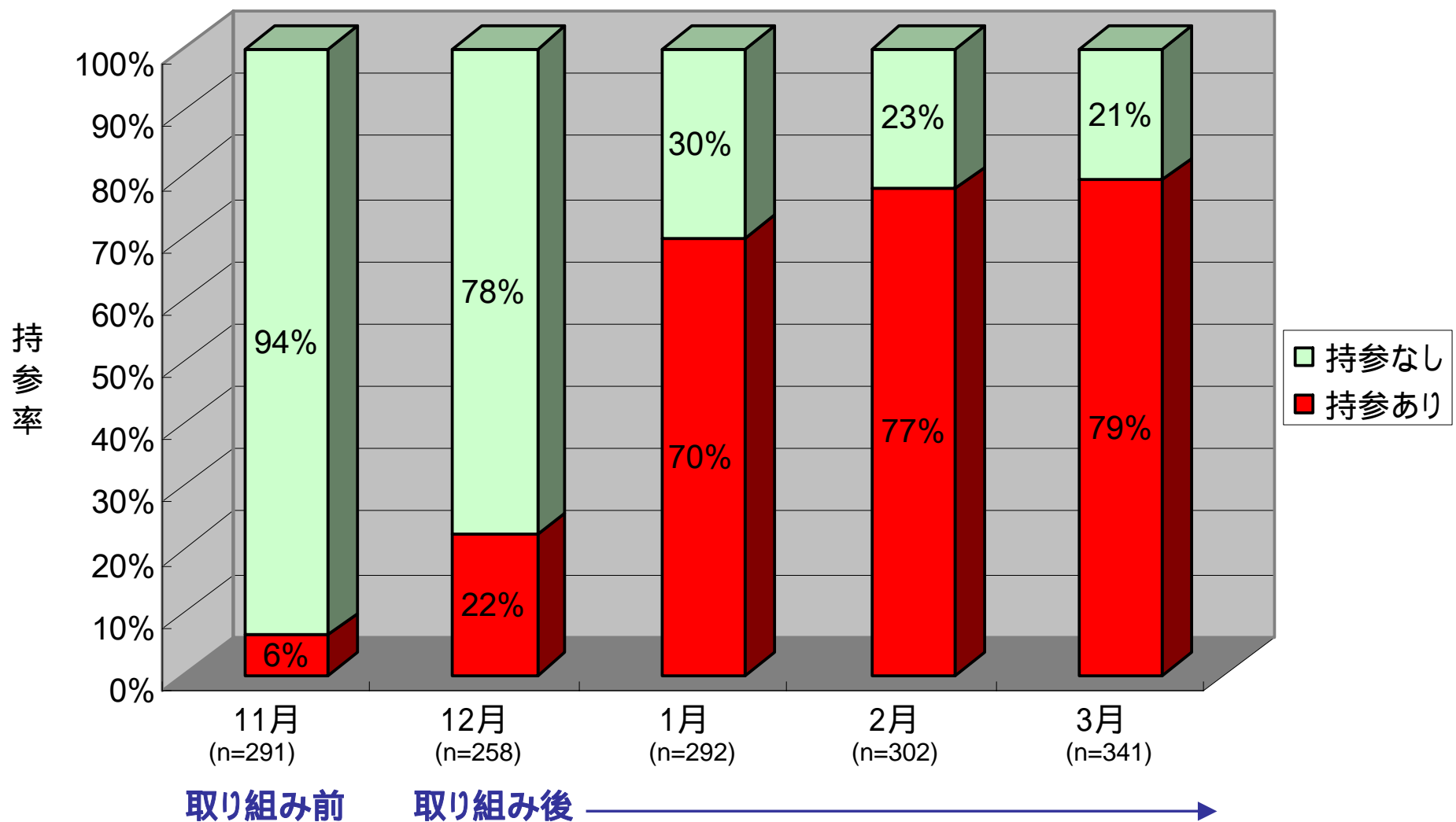
薬剤師が「初回受診時」に確認した持参状況



外来患者の受診回数別持参率の推移



外来患者の月別の持参率の推移

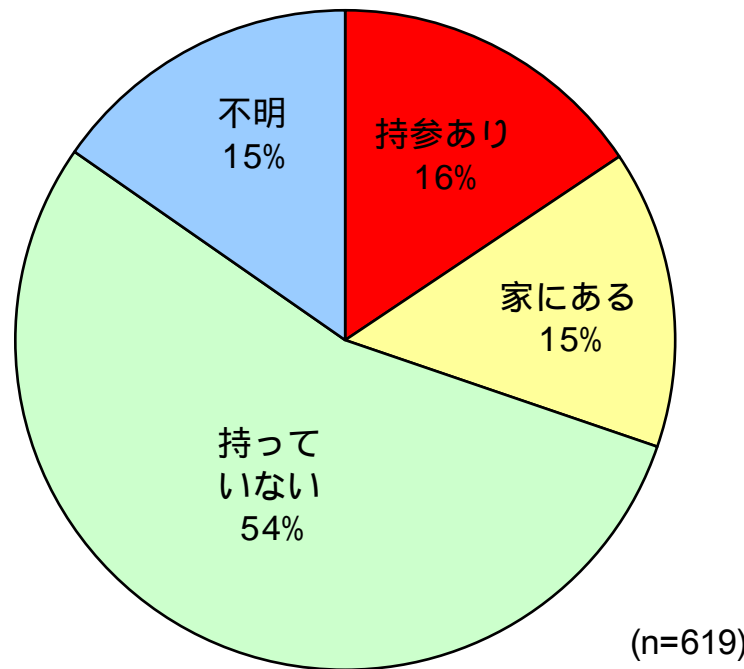


(延べ人数に対する割合)

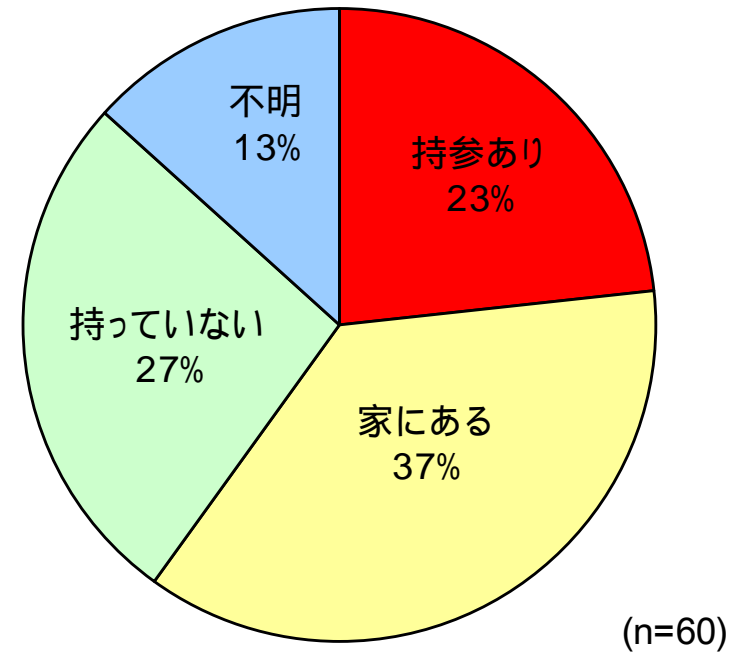
結果 【取り組み後：入院患者】

お薬手帳の持参状況

< 全体 >

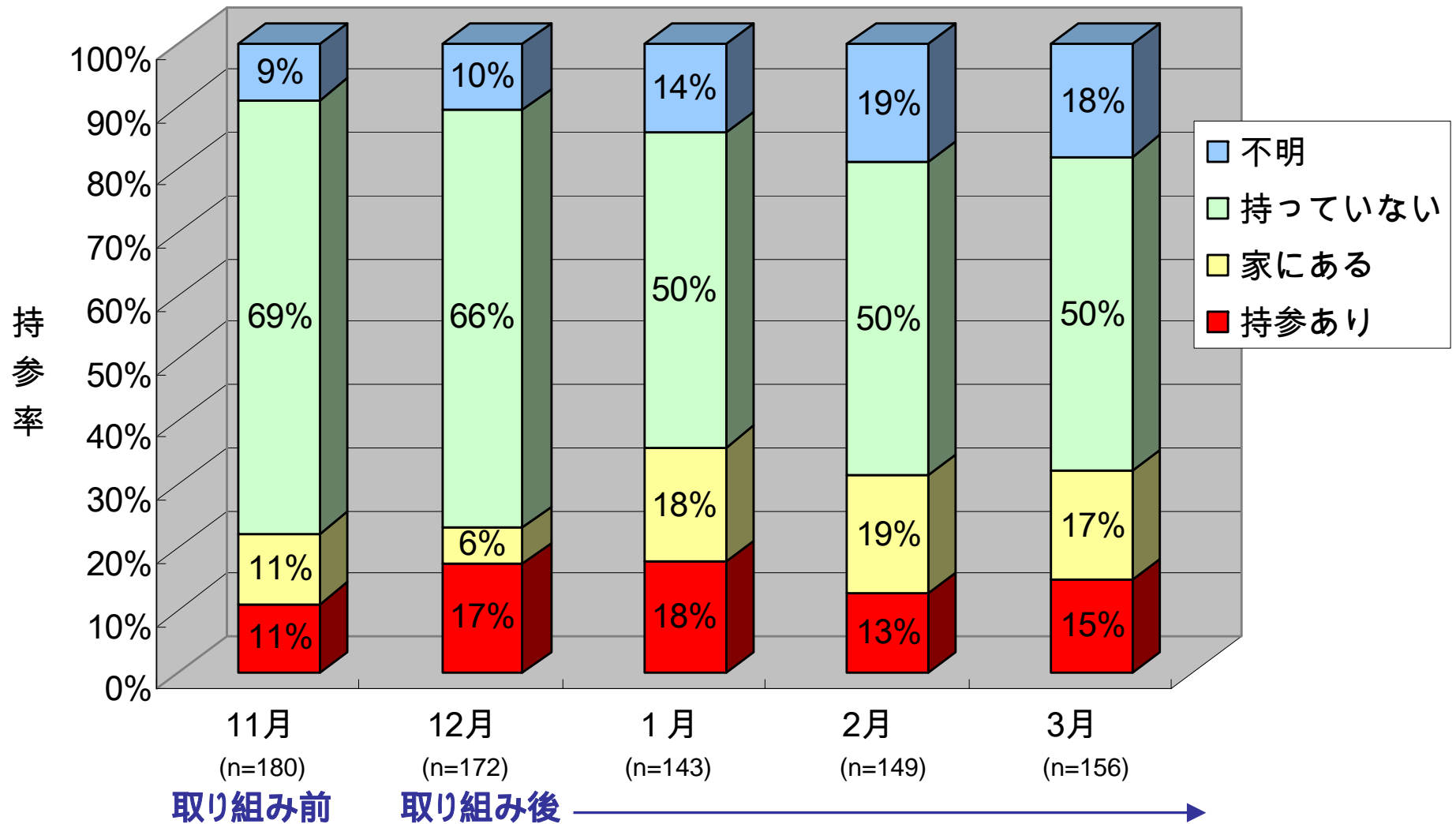


< 再入院の患者 >



(延べ人数に対する割合)

入院患者の月別の持参状況の推移



(延べ人数に対する割合)

まとめ

【外来患者】

- 取り組み前の持参率は6%と低かったが、薬剤師による持参状況の確認・お薬手帳配布・活用の必要性の説明等の取り組み後は、**持参率が70%以上にまで大幅に上昇した。**
- ポスター掲示後の持参率は7%であり、掲示前と比べ**殆ど変化が無かった。**
- 取り組み期間中の初回受診時に薬剤師が確認した持参率は18%で取り組み前に比べ12%上昇したことから、**お薬手帳を持参しているにもかかわらず提出していなかった患者があり、薬剤師からの問いかけは有用であった。**
- 受診回数の増加に伴って持参率は上昇しており、お薬手帳を家において来た患者でも**受診毎に持参の有無を確認したことが有用**であった。

【入院患者】

- 取り組み前の持参率は11%であったが、初回面談時の持参状況の確認や退院指導時のお薬手帳配布・活用の必要性の説明等の取り組み後は、全体として持参率は16%であり、月別でも上昇傾向は認められず、**今回の取り組みによる影響は少なかった。**
- お薬手帳配布後に再入院した患者だけの持参率も23%に留まり、家にある(37%)、持っていない(27%)と回答した患者が多かったことから、**退院後に活用されていない実態が明らかになった。**

考察・今後の課題

今回、お薬手帳の持参率を上昇させる取り組みを行った。外来患者では、受付表示やポスター掲示だけでは持参率は上昇せず、お薬手帳の配布はもちろん、**薬剤師が持参状況を毎回確認したことや、持参していない患者に活用の必要性を説明したことが持参率の上昇につながった**と考えられる。

しかし、入院患者では未だ持参率が低く、今回の取り組みは直接的に反映されなかった。この理由は**退院指導患者だけにしかお薬手帳を配布していないことや、配布後の再入院時における意識の低さ**が影響していると考えられる。

本年4月に医療保険制度が改正されたことによりお薬手帳の重要性は更に増している。今後、特に入院患者の啓発方法を検討・工夫していく必要がある。